

# 8 日豊海岸に残る戦争遺構を訪ねて 豊予要塞と佐伯海軍航空隊

シーズン  
通年

ストーリー ● 佐賀関の「関」は、海の関門・関所に由来する海上交通の要衝であることを意味しています。国防のために重要視され、要塞化された2つの半島と決して忘れてはならない戦争の惨劇を辿るルート。

## モデルルート

09:00 ~ 10:20 湯布院IC ~大分宮河内IC ~豊予要塞砲台跡

10:20 ~ 11:05 豊予要塞砲台跡や岬の遊歩道を散策



11:00 ~ 11:10 豊予要塞砲台跡~関崎海星館

11:10 ~ 11:50 関崎海星館

11:50 ~ 12:10 関崎海星館~黒ヶ浜~あまべの郷 関あじ関さば館

12:10 ~ 13:00 あまべの郷 関あじ関さば館で昼食



13:00 ~ 14:00 あまべの郷 関あじ関さば館~大分宮河内IC ~佐伯IC  
~佐伯平和祈念館やわらぎ

14:00 ~ 14:30 佐伯平和祈念館やわらぎ



14:30 ~ 15:10 佐伯平和祈念館やわらぎ~丹賀鉄砲台園地

15:10 ~ 15:30 丹賀鉄砲台園地

15:30 ~ 17:20 丹賀鉄砲台園地~佐伯堅田IC ~湯布院IC

本日のお食事



## 関の海鮮丼 (1,320円)

豊後水道を一望できるレストランでは、新鮮な海の幸・山の幸をふんだんに使った料理を堪能できます。名物の海鮮丼や期間限定のくめ料理など様々な料理で皆様をお待ちしております。

※関あじ・関さばは時期や天候によって水揚げされないこともあります。あらかじめご了承ください。



## 豊予要塞

豊予要塞（ほうよようさい）は、豊予海峡の防備のため設置された大日本帝国陸軍の二等要塞で、四国側の佐田岬地区、九州側の鶴見半島地区及び佐賀関（関崎・高島地区）の3つの地区に分かれていました。各砲台を護る豊予要塞重砲兵連隊は、1941年（昭和16年）に佐賀関で編成されました。

豊予要塞の司令部は、関崎砲台から3.5km離れた場所（現在の佐賀関中学校）に官舎がつくられ、砲台は終戦を迎えるまで実戦で使用されることはありませんでしたが、鶴見地区の丹賀鉄砲台で実施した実弾射撃の際に腔発事故を起こし、16名が死亡、28名が負傷するという悲しい事件が起きました。爆発事故で亡くなった内藤中佐以下16名の名前が彫られた慰霊碑があります。隣接して、太平洋戦争で亡くなった旧鶴見町の方々465名の名前が刻まれた平和の塔があります。

丹賀砲台は、大正15年10月に起工し完成は昭和8年10月、8年の歳月をかけて建設し、工員が増えることで町は賑わったそうです。昭和16年12月、真珠湾攻撃があり大戦がはじまりました。翌年の昭和17年1月11日、戦闘に備えて実射訓練を開始。8発を発射し最初の4発は射程距離1万メートル（10km）、後の4発は射程距離2万メートル（20km）を発射。最後の1発が砲身の中で暴発し、砲塔井の根元から吹き飛ばされました。爆音が地区に鳴り響き窓ガラスが割れ、真っ黒い煙が立ち上りました。亡くなった方々は事故死として処理され、補償もなかったそうです。



関崎海星館



黒ヶ浜



丹賀鉄砲台園地



## 佐伯市平和祈念館やわらぎ

昭和初期の佐伯市は佐伯海軍航空隊とともに歩んできました。戦争と佐伯の関わりを検証し、平和について考える施設です。佐伯海軍航空隊の概要を紹介したり、戦争体験者の証言や遺品展示、本当の平和について考えていただくコーナーなどがあります。

やわらぎの背後にそびえる長島山、正面の濃霞山には、多数のコンクリート地下壕や機銃台座跡などが残されています。いずれも日本の近代戦争の歴史を語り継ぐ貴重な遺産です。

SDGs との関連性

